

9/30
五方旗

安倍晋三首相が突如持ち出した
経済政策「新3本の矢」の目玉と
して「介護離職ゼロ」を掲げたこ
とに不信と戸惑いの声が上がって
います。確かに、親の介護のため
仕事を辞めざるをえないなどの介
護離職は解決が急がれる深刻な問
題です。しかし安倍政権が実際に
やってきたのは、負担増や給付減
で公的介護の利用を妨げ家族にばかり
介護の苦労を強いる制度改悪
の連続ではなかったのか。介護離
職を増大させる政策を実行してお
きながら、その反省もないまま
「介護離職ゼロ」を口にかに言いつ
出しても、説得力を持ちません。

「介護離職ゼロ」

五
長

ごまかすため持ち出したもので、その内容は、国民に犠牲をおしつけた経済政策「アベノミクス」の焼き直しです。首相は「希望を生み出す強い経済」「夢をつむぐ子育て支援」「安心につながる社会保障」の「新しい矢」の目新しさを売り込みましたが、記者会見で畢竟体的な中身を問われると「腰を立て取り組む」としかいえません。3本目の矢「安心につながる社会保障」の最大の売り物が「介護離職ゼロ」です。首相があげたのは、「仕事と介護が両立できる社会づくり」のために介護施設の整備、介護人材の育成、在宅介護の

などと胸を張って語る資格があるのでしょうか。2012年末の政権復帰以降、安倍政権が実行してきたのは、「自助努力」の名で高齢者や家族に負担増と給付減を強いる介護保険制度の大改悪でした。とりわけ今年4月からは、要支援1と同2の人の訪問介護・通話介護の「保険給付なし」、特別養護老人ホームの入所条件を「要介護3以上」に制限する厳格化を强行するなど、家族に介護の重荷を強いる改悪を実施しています。8月からは一歩初めて2割負担を導入するなど負担増を強いています。

定の結果、経営が成り立たず閉鎖・休止に追い込まれる事業所が急増しています。拙い手の介護職員の待遇改善もできず、人手不足にも深刻な拍車をかけています。

改悪の中止・撤回こそ

安倍政権は歴代自民党政権から手をつけられなかつた介護保険改悪を次々と行つたことによつたく反省がありません。それどころか来年度予算でも公的介護抑制を狙い社会保障費の削減も続行する構えです。長時間労働をひどくするなどの労働法制改悪は介護離職を加速させる最悪の逆行です。

「介護離職ゼロ」というのなら、介護保険改悪や労働法制改悪を即刻中止・撤回し、社会保障の拡充への道にひそむ転じるべきです。